



4月17日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数・理科)

国語科・算数科・理科の全ての教科において、全国平均・京都府平均ともに上回りました。また、質問紙調査では、「今回の問題ではどのように解答したか」という問いに対して、「最後まで解答をしようと努力した」と答えた児童の割合が、全国・京都府と比べて高く、子どもたちが問題にしっかりと向き合い、最後まであきらめずに取り組もうとしていた姿勢がうかがえます。

国語科より

全体的に概ねよくできていましたが、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことに課題が見られました。授業では、友だちとの話合いやインタビュー活動を通して、「自分の考えをしっかりと持ち、友だちの考えを聞きながら、考えを深める」ことを大切にしています。今後も、友だちの考えに質問を重ねながら理解を深め、自分の考えを整理していくような学習展開を意識して取り組んでいきたいです。

算数科より

概ねよくできていましたが、「台形の意味・性質についての理解」に課題が見られました。また、分数の加法については、計算はできていても、なぜ通分するのか、数直線上で分数をどのように捉えるのかといった理解には課題がありました。今後も知識を目的に応じて活用できる力を育てるための手立てを工夫していきたいと思います。

理科より

全体的によくできていて、顕微鏡の操作方法についても特によく理解していました。一方で、「発芽の条件」について、差異点や共通点を基に新たな問題を見出し表現することや、問題解決のための観察・実験方法を検討する力には課題が見られました。今後も、観察や実験などの体験を通して得た知識・技能を活用し、理解を深める学習活動を展開していきたいと思います。

質問紙より

「学校に行くのは楽しい」「友だち関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」の項目で、肯定的な回答が多く見られました。また、「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している割合が高かったです。今後も、教師との関係や友だちとの関係の中で、互いの良さを認め合い、個々の自己肯定感を高めていけるように、これからも子どもたちに働きかけていきたいと思います。

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりするためのものです。結果は学力の全てを表すものではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

学校教育目標の「ともに学び 自ら考え行動する朱六の子ども」の実現に向けて、今後ともご理解とご協力を宜しくお願い致します。

